

教育環境の整備

理科の楽しさを体感しながら、キャリア教育を図る。



べっこう飴作り。  
温度による溶け方の違いを  
じっと観察します。

なみえ創成小中学校で12月11日(金)理科実験ワークショップを開催しました。講師は、NPO法人ガリレオ工房副理事長の白数哲久先生と大学生の皆さん。学年ごとに応じた実験を行い、楽しく理科を学びました。中学生はプログラミングに挑戦。大学生との交流も図り、キャリア教育も行いました。身近にあるものを使って行われた今回の実験は「家でもやってみたい」と大好評。理科の楽しさを身近に体感できたワークショップになりました。

NEWS

「第53回  
花いっぱい  
コンクール」  
奨励賞を受賞



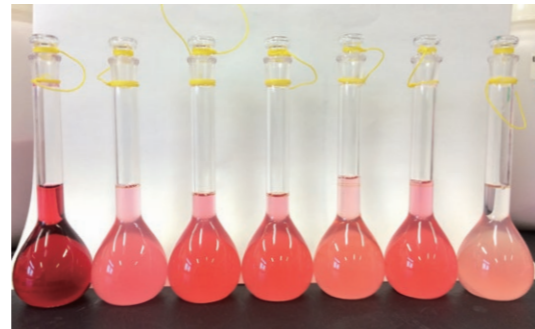
地域に帰還した高齢者の生きがいづくりと地域コミュニティ再生支援を目的とした「そうそう花プロジェクト」。岡内東児童公園(富岡町)の花壇整備を中心とした活動は3年目となります。「さくらハーバリウム会」と福島大学サテライトが中心となり、今年度は毎月の定例活動や花コンクールの応募などの活動を町づくり会社と連携。地元企業やとみおかサポータークラブの参加協力を得ることができました。これからも活動の輪を広げ、町を明るくするために尽力していきたいと思っております。

SHOKUNO WITH US  
食農学類  
だより

果物と健康の科学

近年、果物は美味しく食べるだけでなく、その果物が有する健康機能性への関心が高まっています。果物の摂取と疾病の関係を調査した疫学調査は、欧米諸国を中心に行われており、心血管疾患や糖尿病、肥満など生活習慣病発症リスクと、果物の摂取量に相関があることが報告されています。また、最近では果物の摂取と腸内細菌叢との関連性も注目されています。これらの機能性には、果物に含まれるポリフェノール類やカロテノイド類などの成分が寄与していることが明らかになっています。福島はモモやリンゴをはじめとする果樹栽培がとて盛んです。果物を食べるとどんな効果があるの?どの成分が重要?どんなメカニズムなの?機能性成分を増やす栽培方法は?調理・加工法は?…など、研究する事は沢山あります。果物の美味しさと健康機能性の研究を通じて、「食と農と健康」の大切さや面白さを発信し、人材育成や健康増進に貢献したいと思っています。

執筆者/食農学類 准教授 升本 早枝子 Saeko Masumoto



ちいきの  
こどもたち

こんな時期だからこそ  
上を向き、楽しめる  
イベントを。



「プラネタリウム、観たことあるかな〜?」

いわき市の仮設校舎で学校生活を送る双葉南・北小学校。今年は学校での行事が相次いで中止になりました。「子ども達が楽しめるイベントがしたい」と、福島大学のサテライト富岡本所に要望し、12月15日(水)移動プラネタリウムによる星空教室を開催。講師はSTARRING PLANETARIUMの杉中慎さん。幼稚園と中学生も参加し、美しく映し出されるたくさんの星たちに大きな歓声が上がります。プラネタリウムを初めて観る子がほとんど。思い出に残る、素敵な1日になりました。

相双  
まちの  
声



橋葉町こころ笑店街クリスマスイルミネーション  
点灯式で歌声を披露

歌で感謝と元気を届けたい

南相馬市とその周辺の子どもたちで2009年に結成されたコーラスグループのMJCアンサンブル。2011年の2月に全国大会予選を突破した直後の東日本大震災、原発事故でメンバーがバラバラになる中、避難先で自主練習を続け、その年8月の全国大会に出場しました。そのひたむきな姿が目ざされ、地元の南相馬はもちろん、F-1開会式での国歌斉唱、ローマ法王に献呈演奏、ウィーン少年合唱団との共演など、国内外たくさんの人々に歌と笑顔をお届けしてきました。震災以降、挫けそうになる人々の心を励ましてきたMJCアンサンブル。これからも、感謝と元気を届ける活動を続けていきます。

27

2021. 冬号

「相双の風」は、相双地域の今と、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター(FURE)相双地域支援サテライトの地域復興に向けた取組みを紹介するニュースレターです。相双地域支援サテライトは被災地域と福島大学をつなぐ現地拠点として、地域再生を目指す支援活動を行っています。



2021年1月1日 請戸の海から昇る初日の出

TOPICS | トピックス

～初日の出に、復興の誓いあらた～

1月1日、浪江町元旦の恒例行事「あるけあるけ初日詣大会」が開催されました。1980年から開催されているこの大会は、震災後一時中断していましたが、2018年に再開。今年は震災前と同じ「請戸海岸」をゴール地点としたコースに復活。朝5時に「道の駅なみえ」に集合した参加者は、請戸海岸までの5kmのコースを家族、友人らと一緒に歩きました。早朝にもかかわらず集まった参加者は約300人、海から昇る初日の出に、新年の誓いや震災から10年を迎える町の復興、新型コロナウイルス感染症の収束を願いました。



福島大学公式マスコット  
キャラクター めばえちゃん





～12市町村に、今ふく風をご紹介～

広野町

Hirono town

太平洋を望む  
みかんの丘



温暖な気候に恵まれた広野町は「東北に春をつげる町」をキャッチフレーズとしています。約30年前から栽培を続けてきたみかんは今ではふるさとの味に。役場南西側、海の見える高台にみかん畑として整備された「みかんの丘」。年末にはみかん狩りがあり町民に親しまれている場所になっています。頂上には小さな広場があり、広野町を一望することができます。

檜葉町

Naraha town

ならばsolar e-bikeで  
檜葉町を駆け巡ろう!



檜葉町の観光スポットを楽しんでもらおうと、アンフィニ株式会社がシェアサイクル「ならばsolar e-bike」をはじめました。竜田駅・木戸駅・Jヴィレッジ駅・ならばキャンパス・女平地区集会所に計20台の電動アシスト付自転車と配置、アプリ「COGI COGI SMART!」で会員登録後チケットを購入し(クレジットカードで支払い)利用できます。15分50円、6時間1,000円、12時間1,500円、24時間2,400円の4つのプランがあり、自転車を借りた場所と別の場所でも返却が可能です。

富岡町

Tomioka town

ワインを通じた  
まちづくり



(一社)とみおかワインメーヌが、クラウドファンディング『100年後の未来をつくる!とみおかワインプロジェクト』を11月にスタート、一週間で見事に目標を達成、最後は231名の支援者を得て締めくくりました。これまでの2ヶ所の圃場に加えて、昨年は富岡駅東圃場を開設、調達できた資金では拡張予定の富岡駅東圃場の作業環境改善に役立っています。葡萄栽培をはじめから100年の2115年にはどんな景色が広がっているでしょう、常磐線の車窓から広がる、葡萄畑の景観が楽しみです。

川内村

Kawauchi village

おもてなしの  
郷土料理教室



川内村行政第1区の住民で結成された高田島ふるさと支え合い協議会は、令和2年12月12日、集会所で「郷土料理教室」を開催しました。区内のワイナリー開設で交流人口が見込まれるため、そのおもてなしとして区住民は、「高田島ひら」「高田島みそ田楽」「高田島つけもの」の3品を調理。住民20人、福島大学行政政策学類の鈴木典夫先生とゼミ生の計10名が試食に参加。秋田県出身のゼミ生からは、「地元秋田よりもショッパサがなく、減塩でヘルシー」というコメントがあり、交流人口拡大に寄与できると住民は期待をふくらませています。

大熊町

Okuma town

故郷を忘れない。  
新名物の日本酒「帰忘郷」  
「あなた」と「大熊町」をつなぎます!



大熊町大川原地区で収穫された酒米「五百万石」が会津若松市の酒造、高橋庄作酒造にて醸造されます。名称「帰忘郷」には、「原発事故後に町民がばらばらになったが、常に心には大熊町があり、故郷を忘れない」との思いが込められています。現在、2022年に完成予定の「帰忘郷」のクラウドファンディングを行っています!是非、ご協力ください。



詳細はこちらから 大熊ファンクラブ 募集中!

▶おおくままちづくり公社 TEL.0240-23-7101

双葉町

Futaba town

「ふたば、ふたたび☆まちなかガーデン  
プロジェクト」花植え活動



常磐線の開通、施設の開館等、昨年は大きな変化がありました。復興の歩みが進む中、建物の解体が進み更地が広がっていくなど町の表情も変わってきました。「訪れた人に少しでも明るい印象を持ってもらいたい」そんな思いから、ふたばプロジェクトは、町内で復旧復興作業に携わっている方やふたばファンクラブ会員の方と一緒に双葉駅周辺の草刈りや清掃活動を行っています。12月5日には、町民の方も交えてJR常磐線双葉駅(東口)広場に集まった約80人で、町の木・センダンをはじめ、バラ、クリスマスローズ、チューリップ、ピオラなど500苗以上の花植え活動を行いました。双葉町にお越しの際はぜひ駅前の「ガーデン」をご覧ください。

浪江町

Namie town

「思い出の品展示場」  
3月21日で閉鎖



平成26年7月に開設されてから、10,000人以上の方が来場され、2,300点以上の思い出の品をお返ししてきた展示場。震災から10年という節目を機に閉鎖することになりました。閉鎖後、写真を除き品物は処分される予定ですので、閉鎖前にもう一度品物をご確認ください。※お引き取りの際には、運転免許証など本人が確認できるものが必要になります。

▶場所:旧双葉ギフト(浪江町大字高瀬字牛渡川原217)

▶TEL.0240-24-0100 開館時間/9:00~16:00

※都合により開館時間を変更する場合がありますので、ご了承ください。

葛尾村

Katsurao village

福島大学卒の  
地域おこし協力隊



福島大学災害ボランティアセンター「都路学生DASH村」で活躍した福島大学卒業生の豊岡つかささんは、令和2年4月から葛尾村復興交流館あぜりあで、葛尾村の地域おこし協力隊として活躍しています。あぜりあでは、イベント企画リーダーとして、ふるさと納税の発送用箱のデザインを、葛尾小学校児童と一緒に作製しました。今後は、絵などを描くアート企画を予定しています。

▶葛尾村復興交流館あぜりあ TEL.0240-23-7765

飯舘村

litate village

いごちのよい、  
愛される道の駅へ



今年開業4年目を迎える「いいたて村の道の駅までい館」。昨年、直売コーナーを増築し品揃えがより充実。地元産の野菜、村民の手仕事が生きた加工食品や切り花など、産地ならではの商品をお買い得価格で販売しています。隣接する多目的交流広場「ふかや風の子広場」への訪問客の立ち寄り、子ども連れのファミリー層が増え、また新たなにぎわいがあります。レストランコーナーでは、こだわりのメニューに加え、地元の樫久里(あぐり)コーヒーが新しくラインナップ! 今後、地元産のそばの提供も予定しています。飯舘村にお越しの際には、是非お立ち寄りください。

▶までい館 水曜日定休

▶営業時間/9:30~17:00(11月~2月) 9:30~18:00(3月~10月)

田村市

Tamura city

ここから灯でつながる  
@上道之内



都路町の「上道之内ふるさと活性化実行委員会」は、昨年10月に地域づくりや交流人口拡大を目的に住民有志により設立されました。12月19日に、どんぐりの家で、「郷土を振り返る住民交流会」「イルミネーション点灯式」が開催され、住民約30名、福島大学災害ボランティアセンター学生5名、同学・鈴木典夫先生が参加。これを足掛かりに地域づくりの歩を進めていきます。また、1月24日には、同学・鈴木先生による見守りワークショップを開催予定です。

南相馬市

Minamisoma city

あかりを通して地域の住民の  
絆や繋がりを強めたい



今季で18回目を迎える「あかりのファンタジーイルミネーション inおだか」は小高の冬の風物詩としてすっかり定着。小高区内の事業所、各種団体、個人宅を含め約20件が、思い思いに趣向を凝らしたあかりで小高を彩ります。あかりをご覧になった方も元気を届けられるよう、これからも「小高のあかり」をつないでいきたいと思えます。※点灯期間は1月11日で終了しています。

川俣町

Kawamata town

自然の中でのびのびと  
~グループホーム「山桜」が開所



震災前から障がい者支援の活動をしているNPO法人絆は、障がい者グループホーム「山桜」を12月に開所。周田から「保護者は高齢化していくのだからグループホームがあれば安心なんだけど」という声をうけて地元の山木屋で施設を整備しました。山木屋の寒さにずっと耐え、春を待ちわびる人に元気を届ける山桜のように、という思いをこめた施設名「山桜」。「利用者が自分の家のようにのびのびと過ごしてほしい。帰還される方が少ない山木屋の活性化になれば、担当の遠藤さんの思いです。

▶グループホーム「山桜」 TEL.024-572-4363